

書く

1. 日本語と違って英語は語順が命です。
SVOの語順は守ってください。
2. 「誰が何をするか」を文の最初に持って来る練習をします。
3. 英語には一番大事な文を段落の頭に持って来るというルールがあります。

社会人は「書く」ことが仕事の一つです。報告書やメールはしょっちゅう書いています。でも残念なことに日本語でも「書く」練習はあまり学校でやりません。英語で「書く」場合は特に文法と構造に注意します。日本語と違って英語は語順が命なので、SVOの語順は守ってください。「てにをは」がないので順序を間違えると意味が通じません。誰でも最初は日本語式について目的語から文を始めてしまいます。たとえば「報告書を明日までに送ります」とメールに書きたいのに「My report」と始めると後が続きません。自分の事は常に「I」で始めればいいので、「I will send you my report by tomorrow」と「誰が何をするか」を文の最初に持って来る練習をします。

また英語には一番大事な文（キー・センテンス）を段落の頭に持って来るというルールがあります。結論を最初に書いてから、その説明や証明を後に書くという構造です。これも日本語とは異なりますので気をつけてください。そのため英語の速読法は段落の最初の文だけ読めばいい事になります。英語で書くという事は和文英訳ではありません。考えた事を英語のルールに従って文字で記録するという行為です。ですから「読む」練習で蓄えた引き出し